
レンアイ ノ ヒトコマ 【ショート・ショート】

横森 RON

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レンアイ ノ ヒトコマ 【ショート・ショート】

【Nコード】

N1080E

【作者名】

横森 RON

【あらすじ】

恋愛の一場面を切り取ってみました。

（前書き）

執筆中の連載「変化の風、運命の車輪」とは全く関係ありません。
なんとなく書いてみました。

「あの時僕は君にキスをしたけれど、それが『好き』という感情から来た行動なのかはわからない」

学校の帰り道、寄り道をしたゲームセンターで手を繋ごうとした私にオツキ君が言った。

「やっぱり、僕と君はつりあわない。僕に君は似合わない。君に僕がそつであるように」

動かないゲームの、真っ黒い画面に映る私たち。

似合う？似合わない？

他の目を持たない私にはよくわからなかった。

画面の中にいる私のおなか辺りをじっとみて、彼は私と目を合わせないつもりだ。

「他の人を気にしないとだめなの？」

私は尋ねる。

「だめだよ。僕らも他の人の一人なのだから」

ついにオツキ君は歩き出してしまった。私が隣にいないにも関わらず。

歩き出した彼を追いかけるけど、どうしてか私たちの距離は埋まらなくて

車の前輪と後輪の関係のように一定の距離を取られたまま、私はオツキ君を追いかけた。

「私はずっとオオツキ君のことが好きだったんだよ」

最後まで取って置いたセリフをぶつけると、彼は立ち止まり、悲しそうに笑って

「今言われても困るなア」

といった。

そうか、『今』じゃなくて、もっと『前』から伝えるべきだったんだね。

声にして、言葉にして、あなたにちゃんと伝えるべきだったんだね。

「今度から、ちゃんと言うね。君に、ちゃんと伝える」

それでも君の悲しい笑顔は変わらなくて、

私は、もう君の隣にはいけないのかと悲しくなっても彼にそれを教えてはいけない気がして、やっぱり、私も笑った。

それはオオツキ君のような悲しい笑顔だったと思う。

明日から、また『今度』をやり直そう。

教室で彼に会ったなら、『おはよう』から少しずつやり直そう。

明日会えなかったら、明後日。

明後日会えなかったら、その次。

9年や10年かかって、夢のなかですら会えなくても、いつかまた会えたときに、私は『今度』をやり直そう。

その時、君が幽霊になっていたとしても

私は『今度』をやり直そう。

だから、そのときはちゃんと私の目を見てほしいと思うよ。

「じゃあな」

「さよなら」

また、『今度』

（後書き）

大槻ケンヂさんをオマージュしております。

「んん？」と思うフレーズがあるかもしれません。

知ってる人は知っている、知らない人は…気付かないと思います。
アンニュイな雰囲気伝われば大成功。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1080e/>

レンアイ ノ ヒトコマ 【ショート・ショート】

2010年12月13日21時24分発行